



自国との距離

すずき ようこ
鈴木 庸子 ●日伊語通訳翻訳家

あなたが、祖国から遠く離れた国に移住したとする。母国語は通じない。右も左もわからないながらも、この地で生きていくと決めたあなたは、様々な壁を乗り越え、不慣れな土地で地道に努力を重ねていく。公私とも徐々に地盤を築きつつあったあなたを、ある日不可抗力の事故、例えば、大規模な自然災害が襲ったとする。外国人であるあなたは、誰に助けを求めるだろう？

Ramunionと言う言葉を初めて目にしたのは、この11月のことだった。

同月2日、記録的な台風がイタリア中部を襲った。特に甚大な被害を被った、トスカーナ州プラート県を中心とする山間地域には、復旧には全く至っていないどころか、被害総額の算出すらなされていない地域もあることが、災害から4週間を経過した時点で報道されている。

この一帯は、イタリアの織物・ニット産業を牽引する存在として、1970年代から絶対的な地位を確立し、今日に至っている。ファッションの国にあって、その基盤の一つを支える役割を一手に引き受けて久しいこの県の豊かさは、例えば、一人当たりの所得が、州都フィレンツェを抱えるフィ

レンツェ県を抜き、トスカーナ州で最も高いことにも証明されている。

その県庁所在地であるプラート市は、居住者における外国人率が国内で最も高い県都としても、近年は知られるところとなっている。その比率は、ほぼ4人に1人¹。その内訳では、63.6%という圧倒的多数を、中国籍が占めている²。

このような地盤と現象に成立している今日のプラート県とその周辺で、その産業形態がハイブリッド化していることは、容易に想像いただけよう。実際、ファスト・ファッションの台頭とともに、取り扱い業種を衣料品製造にも抜け目なく広げているこの一帯の輸出の約70%は、今や中国籍起業家の会社が担っているのである³。なお、この特殊な現実は、国内ではすでに既成事実として、それなりに認識されている。

そんなプラート地域には、他の被災地同様、前述の台風の直後からボランティアが大勢駆け付け、泥を掬い出し、がれきを片付けるなど、救助作業に勤しんだ。彼らの活躍は、被害地の惨状と合わせてメディアに頻繁に取り上げられていたが、そのなかである日「中国人による中国人のための援

1. 2022年12月31日の時点で、プラートの人口は195,331人、うち外国人46,901人(24%)。https://www.iltirreno.it/prato/cronaca/2023/03/26/news/prato-capitale-dell-immigrazione-straniero-un-residente-su-quattro-1.100269414

2. 29,882人。2022年は、約2,000人増加。これは、2019~2021年の各年間増加数(1,500人以下)を大きく上回る。(参照URLは同上)

3. 参照URLは同上

助」「プラート、Made in China 救助」といったタイトル⁴に違和感を覚え、手に取った記事の主役が、先に挙げたRamunion ——イタリア語発音はラムニオン—— だった。

記事を掲載した複数の全国誌が「中国のNGO」と紹介しているこの団体を調べたところ⁵、どうやら、2003年に杭州市で設立された「公羊会」という組織から派生したようだ⁶。現在は、中国政府からの支援を受ける国際的NGOへと変容した同団体の、英語表記がRam Union。ただし、この2つの単語を一体化したRamunion表記の場合も散見される。その活動は多岐にわたるが、これには民間防衛も含まれる。そしてそのイタリア支部は、ローマでもミラノでもなく、まさにここプラートに設置されているのだ。

私がタイトルに違和感を覚えた複数の記事は、同地域でこの大災害に直面した中国籍の住人たちは、イタリアの公的機関に助けを要請しておらず、イタリアでは主流ではないWeChatのメッセージ機能を介して、一貫してラムニオンにこれを求め続けている、と異口同音に伝えていた。その在り方は、受入国のシステムを撥水しているのでは、との批判に対し、本国の災害現地では軍隊に次いで活動を展開するとされる、今や権威あるこの国際団体のイタリア支部代表は「中国人はイタリア語で詳細を説明できません」と返し、さらに、同団体が各種機材を所有しており、その中の一つ、がれきの下敷きとなった被災者とその位置を探知する音響測深器は「2009年イタリア中部地震の際、当団体が活用したものです」と締めくくっている。

実際、このイタリア支部の会員には、中国人のみならずイタリア人も名を連ねている。何より、2017年の設立以来、地元社会との相互理解に向け

て、プラートを拠点に様々な文化的（学生対象のドラゴンボート選手育成⁷等）・社会的（コロナ期の最中に学校60校を消毒⁸等）ボランティア活動を重ねて来たという揺るぎない実績、極めつけに、パンデミック期を通じた献身的姿勢と絶対的の自己犠牲に対し、イタリア赤十字社が同団体に授与した銅メダル⁹を前にすると、指摘されたその撥水性は、宙に浮く。

支部を置く地域や国、いわば「外部」に対しては、中国 ——二重国籍を認めていない—— からの移民全体を象徴する優れた「看板」となり、「内部」に入れば、そこは本国と繋がった、いわば飛び地的空間が広がっている。もしかしたら、関係者以外には知る由も無い不都合も、あるのかもしれない。しかし、上記のような情報から窺えるのは、海外在住者にとってこれ以上は望むべくもない、完璧な半透膜である。加えて、イタリア支部からの要請に杭州の本部が直接対応し、ニーズに適した物資や人材が迅速に調達・配達される体制を備えているとすれば、中国籍の被災者がラムニオンを頼るのは、至極当然と思われる。

Guardian of life —— Ram Union公式サイト¹⁰のホームページ全体を占める、このフレーズ。命、生活、活動、人生、現世 —— Lifeが含む幅広い意味のうち、いずれの保護者である、と宣言しているのだろうか？

我々日本人は、日本国籍を放棄しない限り、海外では「外国人」以外には成れない。その我々が異国に腰を据えた際、その地において母国を宣伝する機会を提供し、母国とのつながりと国民としての恩恵を、有事の際にはことさら実感させてくれる —— そんな組織は、存在するのだろうか？私は、寡聞にして知らない。

4. https://corrierefiorentino.corriere.it/notizie/cronaca/23_novembre_06/alluvione-toscana-i-cinesi-per-i-cinesi-la-protezione-civile-non-e-italiana-ma-made-in-china-ac3828d6-e151-443b-9dd0-cda3efadexlk.shtml

https://firenze.repubblica.it/cronaca/2023/11/06/news/alluvione_toscana_prato_soccorritori_cinesi-419685104/

5. 筆者は中国語に不案内なため、英語もしくはイタリア語の資料からの情報に限定される旨、お断りを入れておく。

6. Jourda Emmanuel, The Ram Union: Emergence of an International NGO Supported by the Party-state: 2019 <https://journals.openedition.org/chinaperspectives/9150>

7. <https://www.lanazione.it/prato/cronaca/lintegrazione-a-colpi-di-pagaia-nasce-la-squadra-di-dragon-boat-9b2f7c47>

8. <https://www.iltirreno.it/prato/cronaca/2020/06/11/news/ramunion-italia-sanifica-sessanta-scuole-pratesi-1.38957158>

9. <https://www.lanazione.it/prato/cronaca/la-croce-rossa-premia-limpegno-di-ramunion-18a9463c>

10. <http://www.ramunion.org/>